特集2　熊本県市町村広報担当者による飲酒運転根絶特集

その手で守れる笑顔があります

厳罰化されたものの、依然として後を絶たない飲酒運転。なぜ、危険だと分かっている飲酒運転をしてしまうのでしょうか。お酒を飲む機会が増えるこの時期に、いま一度飲酒運転について考えてみましょう。

後を絶たない飲酒運転

平成18年、福岡市で幼児3人が死亡する飲酒運転事故が発生しました。この悲惨な事故は社会問題となり、翌年には法律が改正され飲酒運転に対する罰則が強化されました。しかし飲酒運転による事故や検挙は後を絶ちません。

熊本県警によると、県内の飲酒運転による交通事故は平成19年に大幅に減少したものの、その後はほぼ横ばいとなっています（図1）。飲酒運転は依然としてなくなっていません。

その主な要因には、自分が事故を起こすはずがないという「ひとごと感覚」、少ししか飲んでいないからという「自覚の欠如」、飲んで数時間たったから大丈夫という「アルコールが及ぼす影響に対する理解不足」の3つが挙げられます。飲酒運転をなくすためにはこれらの意識を変えていくことが必要です。

最近では、翌朝の二日酔い運転による検挙も増えています。「一度寝たから大丈夫」は、本当は大丈夫ではないのです。

自覚と周囲のフォローが鍵

飲酒運転で検挙された人の中には、事故の悲惨さや処分の重さなどを分かっていながらハンドルを握ってしまったという人もいます。誰にでも「つい……」ということが起こり得るのです。その結果、社会的信用、仕事、家族の絆などたくさんのものを失います。失ったものを取り戻すためには多くの努力と長い時間が必要です。いま一度、一人一人が当たり前のことを強く自覚することが求められます。

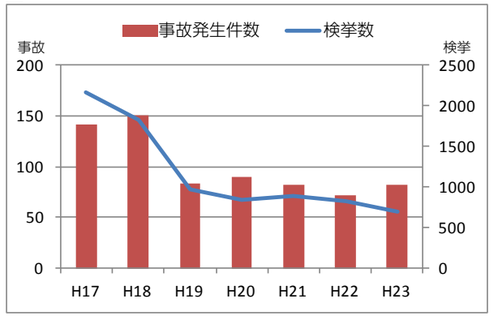
全くお酒を飲まない人でも無関係ではありません。家庭や職場、仲間同士で声を掛け合ってください。お酒の席で飲酒運転への注意を呼び掛けたりハンドルキーパーを決めたりと、できることは身近にあります。あなたの一言が、その飲酒運転を止める鍵になるかもしれません。

Interview

お酒を飲むと情報処理能力、注意力、判断力が低下します。この状態で運転すると、運転に必要な「反応」「操作」「発見」などの要素が欠落してしまい、大きな事故につながることになります。死亡事故率は飲酒なしの場合と比べて8.7倍です。お酒に強い人も弱い人も関係なく、このようなリスクがあることを知ってください。

熊本県警察本部交通企画課
小田真功（おだまさよし）警部

図1　熊本県の飲酒運転による事故発生件数・検挙数



その先にある悲しみに気付いてほしい―

タレントとして活躍しているうんばば中尾さんは、飲酒運転事故を起こした体験を人に伝え、その危険性を知らせるために講演活動を行っています。飲酒運転が自分や周りの人に与えた影響と、防止策について話を聞きました。

私は平成17年に飲酒運転で事故を起こしてしまいました。前日は午後10時頃までテレビ番組の打ち合わせを兼ねてお酒を飲みました。タクシーで帰宅して寝た後、午前3時に起きて「もう大丈夫だろう」と思い、食材を買いに市場へ車で向かいました。その途中、信号待ちで停車していた車に追突してしまったのです。実況見分の最中、私からお酒のにおいがしたため飲酒チェックを受け、測定の結果酒気帯び運転で検挙されました。

事故後、私はお世話になっていた企業や放送局からの信用、キャリア、収入など多くのものを失いました。家族にもつらい思いをさせてしまいました。家や車にいたずらをされ、精神的に不安定になった時期もあります。だからこそ今は、一人でも多くの人に飲酒運転の危険性やその先にある悲しみに気付いてもらおうと講演活動を行っています。

Special Interview

うんばば中尾さん

◎ Profile　うんばば・なかお
昭和 40 年熊本県生まれ。有限会社赤坂を立ち上げ、イベントの企画・運営を手掛けながら、自らもテレビ番組制作などで培ったノウハウを生かしキャスター、リポーター、イベント司会、講演活動などを行う。

飲酒運転を減らすには、自分が酔っていることを知りながら運転する人、お酒が抜けたと思い込んで運転する人にしっかりと自覚してもらうことが重要です。そのためには、当事者だけでなく周りの人も一緒に取り組んでいく必要があります。お酒を飲むときには職場に車を置いてみんなでタクシーで帰る、お酒が残っていないか家族に息をチェックしてもらうなどいろいろな取り組みができると思います。

お酒がなくならない限り飲酒運転を根絶することは難しいかもしれません。しかし、そのせいで人の夢や人生が奪われることは決してあってはなりません。飲酒運転は家族、職場、友人同士など社会全体の問題として本気で取り組んでいくことが大事です。飲酒運転を減らすために一人一人がルールを守り、飲酒運転をしない、させない、許さない環境を熊本県からつくっていきましょう。

笑顔を守るために

「飲酒運転はしてはいけない―」。みんなが知っている当たり前のことです。しかし、アルコールはその当たり前のことも分からなくしてしまうことがあります。

想像してみてください。もし自分が飲酒運転事故を起こしてしまったら……。もし大切な人が飲酒運転事故に巻き込まれたら……。

笑顔を守るための鍵は、自覚と助け合いでした。その鍵は私たち熊本県民一人一人が握っています。

熊本県から飲酒運転をなくし、大切な人の「笑顔」を守っていきましょう。